木田市長のどーんとコミュニケーション

猛暑と地球環境

Vol.92

今年の夏の暑さには、もう勘弁してほしいと感じた人も多かったのではないでしょうか。ニュースでは「今まで経験したことがない雨が降りました」などとよく聞くようになりました。その言葉を借りれば、まさに今まで経験したことがない暑さの夏となりました。サンタバーバラから訪問してくれた中学生たちの歓迎会が8月10日、鳥羽国際ホテルで開かれました。この日の暑さは忘れられません。会場に到着した夕方6時前、私の車の外気温計は38℃を示しており、パーティーが終わった時点で、まだかなり暑いなあと感じたわけですが、午後8時すぎで36℃ありました。

昔は、盆を過ぎれば段々と涼しくなって、子供達も水泳をしなくなるというのが常識だったように思います。ところが今年は盆を過ぎても、猛暑日が続くという異常な状態です。また今年は暑いだけでなく、気圧配置が変わらないためか、日照り続きで、雨が降らないという毎日です。雨不足によって農作物はかなりの被害を受けているようです。市内においても、種をまいた野菜がほとんど実らないとなげく農家もあります。余談ですが、私の妹も和歌山で柿づくりをしていますが、今年は柿の実が大きくなってこないと心配しています。目の前を紀の川という大河が悠々と流れていても、水利権がないため、勝手に水を汲みあげることはできません。じれったく、やきもきしているそうです。

心配なことは、この異常気象やもっとひどい状態が普通になってしまうことです。その理由として、誰もが思いつくのは地球温暖化の影響です。北極や南極の氷が溶けたり、アルプスの氷河がどんどん後退していく様子が報道されます。竜巻の多いアメリカでは、私も若い頃、ラジオの竜巻情報を聞きながら、地下室へ逃げ込んだこともありました。しかし、今年大きな被害を出した幅2㎞の竜巻というのは想像を絶する規模であり、これも温暖化によるものかと心配してしまいます。国内でも時間雨量が100ミリを超える豪雨が頻繁に発生しています。以前はめったに100ミリを超えることはなかったと思います。

地球上のみんなが加担している地球温暖化ですが、その影響による被害が部分的かつ強力に現れてきているのでしょうか。燃費の良い車、効率の高い発電所など改善は進んでいますが、地球が取り返しのつかない状態になる前に、人間の努力が間に合うことを願っています。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.127

『ちょっと立ち止まって』おもいやりあふれる社会に

おばあちゃんに話をしても、聞き取ってくれないためにおばあちゃんのことが嫌いであった子どもがいました。しかし、その原因が理解できたことから、おばあちゃんのことを改めて好きになりました。きっかけはおばあちゃんと共に学んだ地域の小学校での「海女さん学習会」でした。おばあちゃんは、海女さんを長年続けたため、耳が不自由になってしまいました。海に潜る時、海女さんは昔からの伝統で、耳に水が入ってこないように、耳栓（粘土など）をしますが、そのことが耳を圧迫し、年を取ってから、耳が不自由になってしまうからだったのです。一生懸命子どもたちのために働いた上にもたらされた結果としてはあまりにも寂しいことでした。でもそのことを正しく知った子どもは、自らの行動を改め、思いやりをもった行動に努めるようになりました。このように正しく知ることの大切さは、人権教育においては、最も大切なことだと思います。バリアフリー社会をつくるため、さまざまな障害を取り除く努力をすること（施設設備などの整備）は大切ですが、それが完成したら終わりではないと思います。何のために、その障害を取り除こうとしたのか、努力のあとを振り返って、その心を伝えていくことが、最も大切なことではないでしょうか。例えば、伊勢神宮のように、バリアフリーには難しいところもあります。「参拝車いすボランティア」などのように、相手のことを考え行動することは、してもらった人が幸せな気分になる以上にさせてもらった人を幸せな気持ちにさせます。おもいやりあふれる社会をつくるためにはお互いがお互いを思い合える関係を構築し、それを広げていくことが大切だと思います。